

## 4. タイにおける認知症医療に関する医療技術等 国際展開推進事業

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

タイは 2015 年において 65 歳以上の高齢化率が約 16%程度であり、長期介護や認知症が社会問題となりつつある。認知症の医療とケアの技術移転は急務である。

### 【活動内容】

日本においては、1990 年代後半より認知症施策の充実が図られ、国立研究開発法人国立長寿医療研究センターでは、タイ マヒドール大学との連携により、認知症医療とケアのための研修生の受入れを行い、タイで講演会やセミナーを開催するために専門家を派遣した。

### 【期待される成果や波及効果等】

タイの保健省・シリラート病院との意見交換会を繰り返し行っており、バンコク郊外において認知症をふくむ長期介護モデル事業の支援を今年度より行う計画である（新規事業）。

### <研修実施結果>

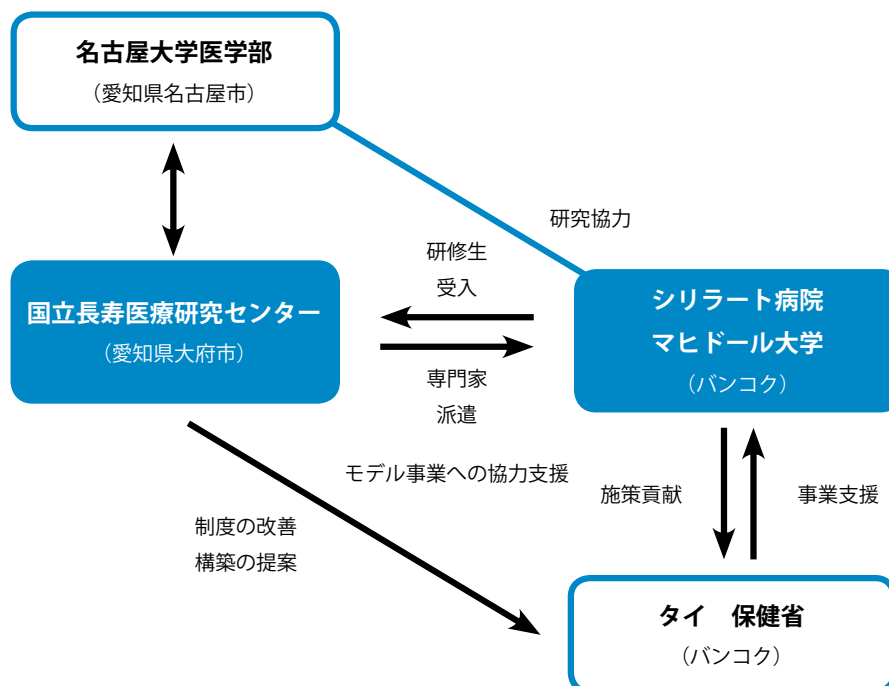
#### 12月 研修生受け入れ（11名）

- ・認知症施策の講義や認知症ケアの実技研修等
- ・介護サービスの視察

- ・タイの健康ボランティアへの講義を行い、Dementia Supporter の普及を図る
- ・シリラート病院が行う認知症モデル事業への支援

#### 12月 専門家派遣（1名）

- ・タイ保健省とのモデル事業打ち合わせ
- ・認知症に関する講演会



## 事業目的

- 日本の認知症医療とケア、制度を、タイの専門家に周知し、相互理解を深めること
- タイの認知症医療とケアの質の向上に資する事業を行うこと
- 本事業は認知症に限定すること
- タイ政府との交流も含めること

長寿医療研究センターが実施しました、2年目にあたる展開推進事業の報告をさせていただきます。我々はスタート時点から認知症医療や介護をタイに展開するために相互理解から始めました。専門家の派遣と研修生の招聘を実施しました。相手方はタイのマヒドール大学のシリラート病院ですが、今年度はサムサコン病院にも拡大して行っております。特徴としましては、元々大学が保健省と非常に近いので、タイ政府との交流を含めて行ってきました。

事業の背景ですが、実際、タイでも相当な高齢化が進んでおります。当初、高齢者層は国民の12～13%という報告だったのですが、今は16%となっており、タイでの高齢者問題、認知症医療が問題となるにつれて関心も高まってきました。我々もこの機会を通じてタイのバンコクの状況だけでなく、日本大使館を通じて地方の課題も見えてきました。バンコクは充実しているのですが、地方ではまだ急性期の入院は3日間となっており、例えば骨折の後のリハビリなどはなかなか難しいということです。課題として、認知症医療の前に、まずサブアキュートのチームの課題があると認識しました。我々は認知症に関する事業として研修を中心に始めましたが、日本に研修生をお呼びした時に彼らが日本の介護施設の研修によって目が覚めると言いますか、意識変化が起こりますので、このような体験が今後のタイに必要なものであると考えました。その中で、認知症を基軸に長期介護、サブアキュートの介護の事業をやろうということで準備を進めまして、当面マヒドール大学のシリラート病院とバンコク郊外の特定の地域でモデル事業共同研究をしようということになりました。

私ども長寿医療センターと名古屋大学、愛知県立大学のメンバーで、シリラート病院とタイの保健省を訪問しました。1つの切り口として教育が取り組みやすいと思われましたので、医療スタッフ向けの研修から行いました。落とし所としては、今までは家庭介護に頼っていた部分が多いので、これから高齢化が進む中で、今後は専門職、もしくは市民向けの研修が必要だろうと考え、検討を続けております。タイにはたくさんのヘルスボランティアが地域にいますので、まずこの方たちへの研修を実施することから始めました。また、JICAのサポートによってケアマネージャーシステムが日本から輸出されています。実際には1,000人

程度のケアマネージャーがいますので、その活用について、JICAによるOT、PTの派遣事業とこの認知症モデル事業がリンクして対応できないか検討しております。

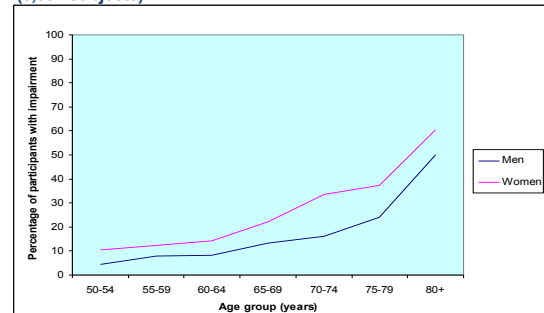
## Cognitive impairment and dementia prevalence in Thailand

- Prevalence of mild cognitive impairment (MCI) in Thailand 15% and 21.3%<sup>1,2</sup>
- Prevalence of dementia: 1.8-9.9%<sup>2-6</sup>
- Difference in the prevalence
  - research methodology
  - study settings
  - population studied (age, education, sex)
  - participation rate
  - cognitive tests
  - interviewers
  - diagnostic criteria used
  - etc

<sup>1</sup>Muangpaisan W, et al. *J Med Assoc Thai* 2010; 93: 224-30.  
<sup>2</sup>Senanarong V, et al. *BMC Neurol*. 2013  
<sup>3</sup>Jitapunkul S, et al. *J Med Assoc Thai* 2001; 84: 461-7.  
<sup>4</sup>Phantumchinda K, et al. *Int J Geriatric Psychiatr*. 6: 639-46.  
<sup>5</sup>Senanarong V, et al. *J Med Assoc Thai*; 84: 408-16.  
<sup>6</sup>Wangtongkum S, et al. *J Med Assoc Thai*; 91: 1685-90.

タイの認知症の状況について色々なデータがあります。有病率は1.8%から9.9%で、20年くらい前の日本のデータから考えても高齢化率16%であればこのくらいの数値かと思えます。奇異に思うのは、MCIが日本では13%ですが、タイでは15%から21%となっていることです。これもし本当たるとすると、今後5年以内に一気に増加することになるのがタイの現状ではないかと思っております。これに対して、タイの一部では認知症を予防するために長寿医療研究センターが開発したコグニサイズというものを取り入れるところが出てきております。急性期医療の診断と、一気に行う予防が充実してきているのですが、この中間がないということです。今は法整備をどうしていくか議論しています。その中でタイ政府が日本の介護保険制度を学ぶところから始めていますが、一気に整備するのはなかなか難しいので、今後どのようにタイバージョンを作っていくかが検討されています。

## Prevalence of cognitive impairment in older Thai population (5,097 subjects)



Muangpaisan W, et al. *Arch Gerontol Geriatr*. 2011;53:3-7.

これはタイの有病率の年代別の増加を示しています。やはり日本と同じように女性が多く、5歳毎に増えていることが示されています。

## 事業の結果概要

- ・タイ政府・シリラート大学の代表11名を招へいし、講義と視察を行った
- ・シリラート大学に1名を派遣し、認知症の医療・研究・リハビリテーション・看護講義の講義を行い、意見交換を行った
- ・認知症の医療に関する英文テキストの作成を行った
- ・タイの保健省の高官と面談し、日本の認知症医療と予防の実情を紹介した
- ・タイ政府とシリラート大学との共同研究ならびにモデル事業の推進を行うことになった、今後の事業展開が期待される
- ・タイの認知症有病率調査では、約1.8から9.9%であった

今回はシリラート大学と保健省、サムサコン病院から11名を招聘し、講義と視察を行っています。成果としましては、我々が日本で実施している医者向けのサポート医養成研修を行い、その英文テキストの作成を本事業で行っております。今後は、タイ政府、シリラート病院、保健省と共に、日本の認知症の体制整備の良いところを導入していただきたいと思っています。交流事業としては、研修のほか、保健省の次官とのミーティング、シリラート病院での講義を行っております。それから実際に日本から派遣したPTの方と一緒に、地方で認知症の研修を行いました。彼らにとっては脳卒中のリハビリや介護は慣れているのですが、認知症は難しいということなので、一般市民向けのテキストを作る時には図や絵を大きくするなど、分かりやすく工夫することが課題だと思いました。

## 交流・派遣事業



## Geriatric clinic at Siriraj Hospital



これはシリラート病院でいつも我々が交流しているメンバーです。

## 今後の課題

- ・タイの専門家の招聘と派遣を計画に沿って実施した。
- ・NCGGとシリラート病院、タイ保健省との会合により、継続的な連携を行う体制を構築すること  
(モデル事業のイメージ: 認知症早期診断体制の構築、予防事業の支援、ケアマネジャーとの多職種連携推進、介護者支援、人材育成等)
- ・平成28年度以降、シリラート病院との共同事業として、認知症をふくむ長期介護モデル事業をバンコク郊外で行う計画であること

今後の課題として、招聘と派遣を通じて日本との相互交流とモデル事業をこれから行っていきます。実際に早期診断体制や予防体制の研修を実施していこうと考えております。保健省も日本の厚生省とのMOUや、我々とシリラート病院とのMOUを計画しているのですが、なかなか実現出来ていないことが課題となっておりましたが、2年目の事業では着実に遂行させていただいております。

以上です。ありがとうございました。